



図書館を使いこなそう

長坂 康史 学長

広島工業大学附属図書館の総所蔵図書数は約26万9千冊。このほか、雑誌や視聴覚資料など、さまざまな種類の資料を所蔵している。皆さんが目指す分野の専門書はもちろんのこと、将来、社会で活躍するために必要な幅広い知識を得るため、専門書以外の図書もたくさん揃えている。そんな図書館を十分活用してほしい。

図書館の機能は図書の閲覧や貸出のみと思いがちだが、近年、図書館の多機能化が進んでいる。図書や資

料の電子化による変化もその一つである。本学も現在、約900冊の電子書籍を所蔵している。また、CDやDVD等を視聴できるメディアの森には7千点を超える視聴覚資料があるので活用してほしい。

さらに、図書館で行っているイベントにも注目したい。書店で良く見かける図書を紹介する帯を作成し、その図書の魅力のアピール度を競う「帯ワングランプリ」や学生が書店に出向き、学生視点で新規図書を選ぶ「ブックハンティング」などがある。また、各自が選んだ本の魅力を決められた時間で紹介し、その本の魅力がどれほど聴衆に伝わるかを競う「ビブリオバトル」も開催してい

る。まとめる力や伝える力なども問われる書評会ではあるが、ぜひ挑戦してみてください。

図書館は自分の知識の幅を広げることができる場所である。皆さんが社会で活躍するために身につけなければならない知識や力は多岐にわたっている。図書の所蔵や貸出だけでなく、イベントの開催なども含め、皆さんを総合的に支援するのが図書館であると考えれば良い。

大学は自由な学びの場である。自分の興味の赴くままに、時には普段手にしないような図書に触れ、また、イベント等に参加することで多くの知識と力を身につけ、社会に貢献できる技術者になることを期待する。

図書館を自分流に活用する

松川 弘 館長

アルゼンチンの作家ボルヘスは、国立図書館の館長でもありましたが、書物の特性について次のようなことを述べています。

「人間の創り出したさまざまな利器のなかで、もっとも驚嘆に値するのは、疑いもなく書物である。他の利器はいずれも人間の体の延長だ。顕微鏡や望遠鏡は人間の目の延長であり、電話は声の延長である。またスキヤ刀は腕の延長である。ところが、書物はまったく性質を異にする。書物は記憶と想像力の延長だからだ。」

人は、書物や映像を通して記憶をつなぎ、記憶に育てられながら、それを自らの想像力の糧としていくのです。図書館は、記憶の器である本を読み、みずからの想像力の種を見つけ、それを自分なりに育てていく

場でもあるわけです。図書館の中を歩き回り、書架の間をぶらぶら散策してみませんか？ 本が並ぶ空間をさまよう中で、「おや、こんな本があったのか」と驚く、意外な出会いが待っていることでしょう。その出会いは、自分がまだ知らない「大事なもの」との出会いであるかも知れません。

何も構えて一気に丸ごと読破しようなどと思わなくていいのです。自分の興味のある個所をその時々で読んでいいわけです。すると不思議なことに、読み手がそのとき何に関心があるかによって、その関心の部分が本の中からキラリと光り、真実の一端を示してくれることもあるのです。

現実の世界では、人間という存在にあらゆる角度から光をあてること



など、なかなかできるものではありません。けれども、優れた書物は、読むたびに人間の色々な側面を示してくれます。

本の中には金を得る手段から精神的なことまで人間に必要なことはすべて書かれている、と言った人がいますが、まさにその通りでしょう。人はいつでも書物から自分の成長に応じて真実のいろいろな側面を発見することができるといえます。

みなさんがこうして見つけた種を大事に育てていくことを、私たち図書館のスタッフは期待しています。